令和５年産

ＪＡえちご中越 さんとう地域「ゆきの精」栽培暦

ゆきの精生産者部会

月	４月					５月					６月					７月					８月					９月				
日	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25
出穂前後日数																-23		-12		0						+38				

生育ステージ

品種特性に合わせた作業計画の策定

種子消毒（温湯消毒）

【作業目安】

浸種開始　4月 3日

催　芽　4月13日

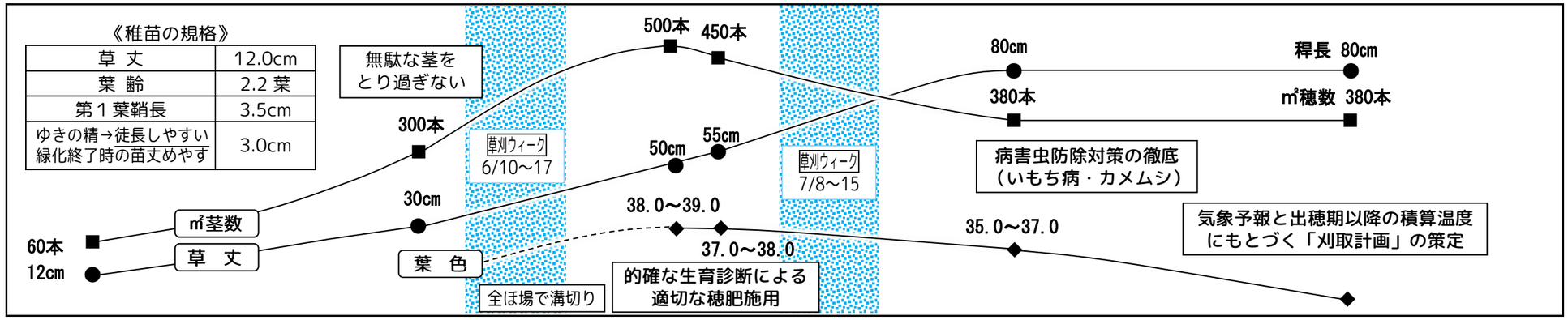
播　種　4月15日

播種量の目安：140g／箱

育苗日数は２０日程度 → 田植え 5月5日～

《稚苗の規格》

草 丈	12.0cm
葉 齢	2.2 葉
第１葉鞘長	3.5cm
ゆきの精→徒長しやすい 緑化終了時の苗丈めやす	3.0cm



中干し開始 6月5日～　最高分げつ期 6月25日　1回目穂肥 7月4日　2回目穂肥 7月15日　出穂期 7月27日　収穫期 9月3日～

病害虫防除

【いもち病予防】ルーチンブライト箱粒剤 播種時～移植当日

除草剤散布

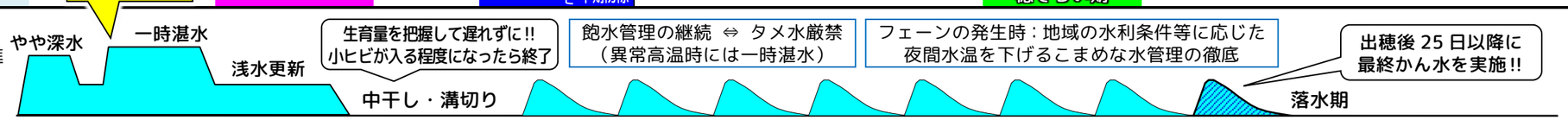
“補植苗”を早期に撤去する

6月中旬～ 葉いもち病 ― 早期発見 早期防除

【カメムシ防除】スタークル剤 穂ぞろい期

水管理

・田植後→3～4cmのやや深水で植え傷み回避
・活着後→2～3cmのやや浅水で早期分げつ促進
・除草剤散布時→湛水状態(水深5～6cm)で散布
・中干し開始まで→浅水更新でワキの発生防止



栽培管理のポイント

Point 1
～適正な作業計画の策定により健苗を育成します～

① 適期播種、適正な播種量、育苗期間20日程度で健苗を育成→徒長に注意
② **土壌診断結果にもとづく土づくり資材（有機質・ケイ酸）の施用**
③ 作土深 15cm の確保～ほ場条件に応じた適正量の基肥施肥→基肥 N 施肥量のめやす：「10a当たり 3.0～4.0kg」

Point 2
～適期田植えで初期生育を確保します～

① 移植前追肥（べんとう肥）の施用→活着・初期生育を促進
② 田植期のめやすは５月５日
・栽植密度：60株／坪
・植付本数：3～4本／株
・植付深さ：2～3cmの浅植え
③ いもち病の発生しやすい地域・ほ場では予防防除（箱施用剤）を徹底→補植苗を速やかに撤去

Point 3
～生育状況にあわせた生育調節で過剰生育を抑制します～

① 目標穂数の８０％（３００本／㎡＝１株あたり１７本)を確保してから→適期中干し開始
② **全ほ場で溝切り(10条：3mに1本）→速やかなかん水・排水管理**
③ 本格的な梅雨入り前にしっかり地固め→中干しは小ヒビが入る程度になったら終了～遅くとも出穂30日前までに飽水管理へ移行

Point 4
～病害虫防除と水管理の徹底で稲体機能を維持します～

① **いもち病･紋枯病の早期発見～早期防除（こまめにほ場巡回）**
② 中干し以降は、田面が強く乾くことのないよう飽水管理を継続(強い中干し・タメ水→厳禁)
③ **出穂後２５日以降に最終かん水を入水（落水は出穂28日以降）**～異常高温時には、速やかに一時湛水～高温障害を防止

Point 5
～適切な生育診断による穂肥施用→品質・収量を確保します～

① **穂肥は出穂25～20日前（幼穂形成期ころ）と14～10日前の2回に分けて施用**→1回あたりの施肥量はN：1.0～1.5kg、合計 2.0～3.0kg／10aを目安とする
② **２回目の穂肥は確実に施用する**
③ 急激な葉色低下がみられた場合は追加穂肥を施肥（極端な多肥栽培を控える→病害被害の抑制）

Point 6
～適期刈取、適切な作業により高品質米に仕上げます～

① **出穂後の積算気温：975℃**を参考に**籾の黄化率（90%）を確認して適期に収穫する**→異常高温が予想される場合には早めに収穫
② **胴割粒の発生防止**：刈遅れに注意～籾水分の確認による適正な乾燥温度・速度で急激に乾燥させない→高品質米に仕上げる
③ 収穫後は早めに土づくり資材の投入＋稲わらの秋すき込み

≪施肥量の目安≫　（成分 kg／10a）

施肥区分	窒 素	リン酸	カ リ
基 肥	3.0～4.0	3.5～4.0	3.5～4.0
穂肥①	1.0～1.5	0.4～0.6	0.6～0.9
穂肥②	1.0～1.5	0.4～0.6	0.6～0.9
合 計	5.0～7.0	4.3～5.2	4.7～5.8

※ 土づくり（有機質やけい酸資材の投入）を徹底し、異常気象に備える

≪中干し開始の目安≫

草 丈	30cm
茎 数	17本／株
葉 数	7.0葉
田植後日数	30日

≪1回目穂肥施用の目安≫

草 丈	65cm
茎 数	25本／株
葉 色	37.0～38.0

◆1 ほ場ごとの生育診断（幼穂形成期の確認）～品種特性にあわせた１回目穂肥の適期・適量施肥
◆2 後期栄養の維持に向けた２回目穂肥の確実な施肥

≪品質向上・収量確保目標≫

玄米1等級比率	90%以上
10ａ当たり収量	600kg

≪品種特性≫

早晩生	耐倒伏性	葉いもち	穂いもち	紋枯病
早生	やや弱	やや弱	中	中

≪収量構成要素≫

収量（kg／10a）	１穂籾数（粒）	穂数（本／㎡）	㎡籾数（百粒）	登熟歩合（%）	千粒重（g）
600	80	380	304	88.0	22.5